



「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園

ことばの力 ♥ からだの力 ♥ こころの力

園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 平成28年6月20日



給食試食会

保護者会主催の給食試食会が

6月14日(火)、68名の参加がありました。企画・運営にあたっていただきました、保護者会役員の皆さま、ありがとうございました。和気あいあいの中、給食のお味は、いかがでしたか？



子どもへ 一生もののプレゼントを！



忙しさのあまり、つい「早くして！」と自分の都合を押し付けがちだった私の子育て時代。猛省です。それでもひとつだけがんばったといえることは、寝る前には必ず絵本を読んだことです。そのおかげでしょうか、読書好きな子どもに育ち、今でも「お母さん、これ読んだ？」と紹介しあう会話があります。現在、娘たちは子育て真っ最中ですが、やはり毎晩欠かさず読み聞かせをしています。以下は、松井直さん(福音館書店)の『絵本の与え方』からの抜粋です。ご紹介します。

絵本は幼児に読ませる本ではありません。それよりも、その子の好きな絵本を、繰り返し繰り返し親が子どもに読んでやることです。お母さんやお父さんが絵本を読んでもくれること、そのことが幼児にはうれしいのです。その上、その絵本が自分のお気に入りの絵本であれば、こんなに楽しいことはありません。この「楽しさ」は、必ず子どもの心に深く残ります。おとなは忘れてしまっても、この喜びは、子どもの成長とともに育ち、それは本への興味にもなっています。

絵本は“幼児に読ませる本ではなく、おとなが読んであげる本”です。



～ いっしょに元気にならしましょう ～

『個育てから共育てへ』

「核家族が問題なのではありません。核家族の孤立化が問題なのです。」ある先生のお話です。

例えば、子ども虐待や子育ての不安の拡大。これらの背景には、親の子育ての能力の低下のみならず、とりわけ母親が家族の中で一人子育てを担わされているという、まさに家族の中での母親の孤立、さらにそのような家族が地域社会の中で孤立しているという現実があるといわれるのです。

そんな中、子育て支援が注目されています。就学前の子どものうち、保育所や幼稚園を利用しているのは6割に満たず、3歳未満の子どもたちは7割以上が、自宅あるいは地域で毎日生活を送っているといわれています。「子育ては親(母親)がするのが当然である。」「親が家にいるのだから、支援する必要はない。」このような考え方が長く一般的に広まっており、在宅子育て家庭への支援という考え方は少なかったようです。

本園では、子育て支援として、預かり保育をはじめ、園庭開放、親子広場、招待保育、体験保育を実施しています。これを機会に多様な人と出会ったり、ほっと一息ついたり、そして、ちょっとでも元気になっていただけたら、との考えから実施しています。

それにしても、昨今、同質な人とのかかわりは密度が濃くなりがちで、いかにも強固なつながりのように見えますが、ちょっとしたことで大きく崩れてしまうことがあります。Lineの世界はその典型。社会生活を円滑に営むには、多様な人間関係をもち、そこそこ折り合いをつけながら生きていくことが必要です。

幼稚園でであった多様な方々、このご縁を大切に、「共育て」を意識していきたいものです。

「許す」「許される」そして「折り合う」という「生きる力」の基礎となる経験を、子どもたちがのびのびした環境の中でできるよう願っています。

「相談」と構えずに、いつでもお気軽にお話にきてください。共に元気になって、『共育』しましょう。